

シライトマキバイの資源状況について

近年の漁獲状況

茨城県では、シライトマキバイは9月から翌年の6月まで行われる底曳網漁業と、7月と8月に行われるバイカゴ漁業により漁獲されています。漁獲量は平成6年には428トンありましたが、近年は100～150トンほどで推移しています。平成29年の漁獲量は前年を下回り、119トンでした(図1)。

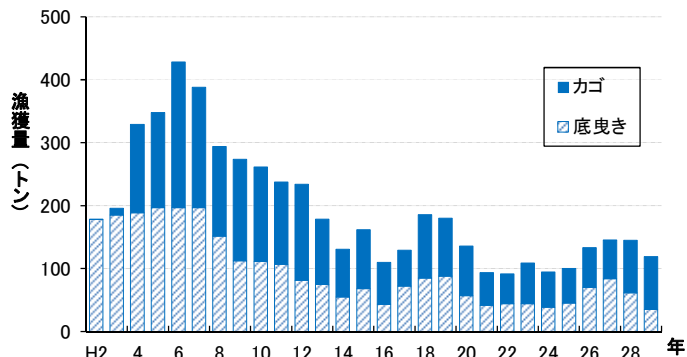


図1 茨城県におけるシライトマキバイ漁獲量の推移

資源調査の結果

水産試験場では、毎年漁業調査船により、カゴを用いたシライトマキバイの資源調査を行っています。本年度は「いばらき丸」により、8月27日から28日にかけて那珂湊沖(36° 20' N)の水深250m・350m・400mにおいて調査を実施しました。

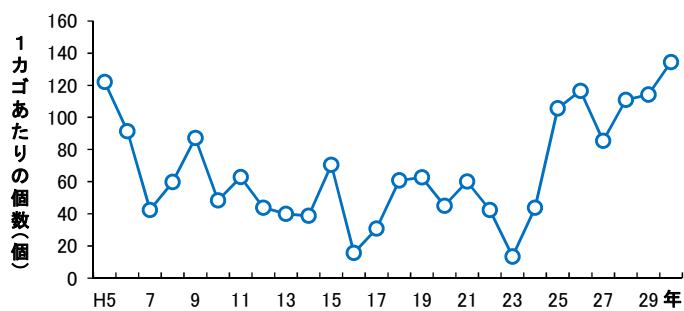


図2 調査で採捕されたシライトマキバイの1カゴあたりの個数(水深350m)

図2に、分布量の最も多い水深350m地点での平成5年以降の1カゴあたりの採捕個数を示しました。今年の採捕量は1カゴあたり134個で、昨年(114個)より少し増加しました。直前の5年間(平成25～29年)の平均と比較すると、個数で1.3倍、重量で1.4倍の増加が認められました。

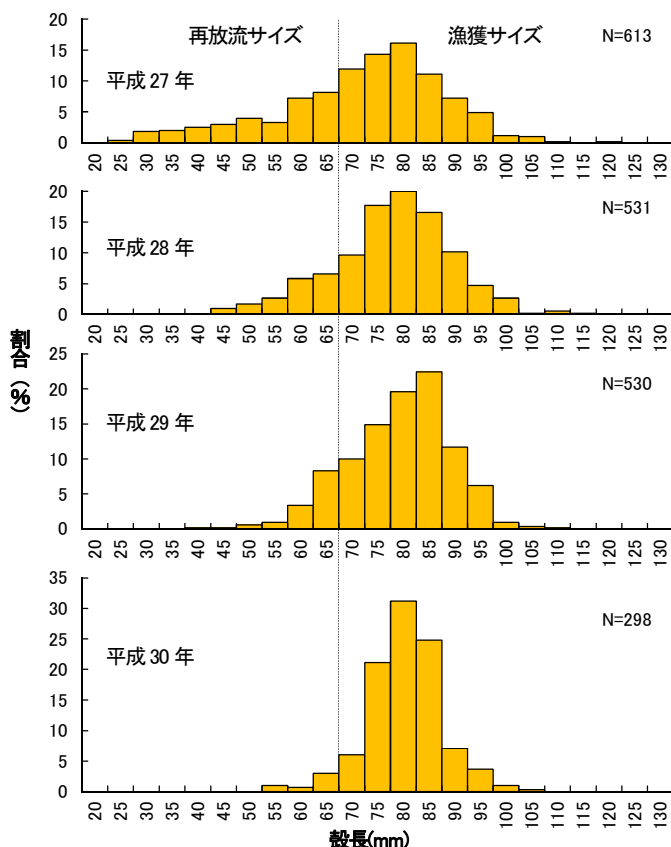


図3 水深350mにおける殻長組成の推移(平成27～30年)

図3に、平成27年以降の水深350mで採捕されたシライトマキバイの大きさを比較しました。本年度の調査で採捕された貝は、55～109mmの範囲にありました。再放流サイズである70mm未満の小型貝は、平成27年には32%を占めていましたが、平成28年は17.7%、平成29年は13.6%、今年はさらに減少し4.7%となりました。また、本年度の他の水深における小型貝の割合は、水深250mが3%、水深400mが17.2%と、水深の浅い方が少ない結果となりました。

これらのことから、漁獲サイズのシライトマキバイ資源は安定しているものの小型貝の加入は少ない状況にあると考えられます。今後も適切な資源管理を実践していくことが重要です。

(定着性資源部)